

2025年8月1日
住友電気工業株式会社
住友電装株式会社

住友電工グループ 初のネットゼロ工場を SWS 西日本・松阪工場で稼働開始

住友電気工業株式会社（本社：大阪市中央区、社長：井上 治、以下「住友電工」）と住友電装株式会社（本社：三重県四日市市 社長：漆畑 憲一、以下「住友電装」）は、SWS 西日本株式会社（本社：三重県松阪市、社長：吉田 真司、以下「SWS-W」）松阪工場において、住友電工製品であるレドックスフロー電池（以下「RF 電池」）^{*1} とエネルギーマネジメントシステム「sEMSA[®]*2（セムザ）」を活用し、2025年8月に住友電工グループ初のネットゼロ工場^{*3} の稼働を開始しました。



*SWS-W 松阪工場の太陽光発電設備で発電された電力の余剰分

住友電工グループは、長期ビジョン「住友電工グループ 2030 ビジョン」において「グリーンな地球と安心・快適な暮らし」をスローガンに掲げ、2030 年度までに 2018 年度対比で温室効果ガスの排出量をスコープ 1 + 2 において 30%、スコープ 3 において 15%削減することを目指しています。また、この達成に向け「中期経営計画 2025」においては「つなぐ・ささえる技術でグリーン社会の未来を拓く」ことに取り組んでおり、その一環として「Go for Green[®] 2025」活動では温室効果ガス排出量の削減や再生可能エネルギーの導入に注力しています。

この再生可能エネルギー導入の取組みとして、SWS-W 松阪工場では工場の屋根に太陽光発電設備（パネル容量：450kW）を設置するとともに、太陽光発電所から供給される再生可能エネルギーを活用するオフサイト PPA を住友電装と共同で導入しました。

さらに、工場における電力使用量と発電量のバランスを保つため、住友電工の RF 電池による充放電を sEMSA[®] で最適に運用できるように制御し、余剰電力を住友電装四日市製作所へ託送することによって、SWS-W 松阪工場のネットゼロを実現しています。

今後も、住友電工グループはグローバルにネットゼロ工場の実現を推進するとともに、住友電工グループの環境製品の提供と活用により「グリーン社会」の実現に貢献してまいります。

News Release



*1 RF 電池

<https://sumitomoelectric.com/jp/products/redox>

*2 sEMSA (Sumitomo Energy Management System Architecture)

<https://sumitomoelectric.com/jp/products/semsa>

*3 住友電工グループでは「年間の温室効果ガス排出量がゼロ以下かつ省エネ・創エネを規範となるレベルで進めている工場」をネットゼロ工場（Net Zero Factory=NZF）と定義

■ご参考

・住友電工グループ GX 特設 Web サイト

<https://sei.co.jp/gx/>

・SWS-W Web サイト

<https://www.sws-w.co.jp/>

以 上